

参 考 手 本

客去つて月、楼に登る

客 登
去 楼
月

※これは規定課題ではありません。

高 木 聖 雨 先生

参 考 手 本

星河秋一鴈

一鴈
星河
秋

成瀬映山先生

※これは規定課題ではありません。

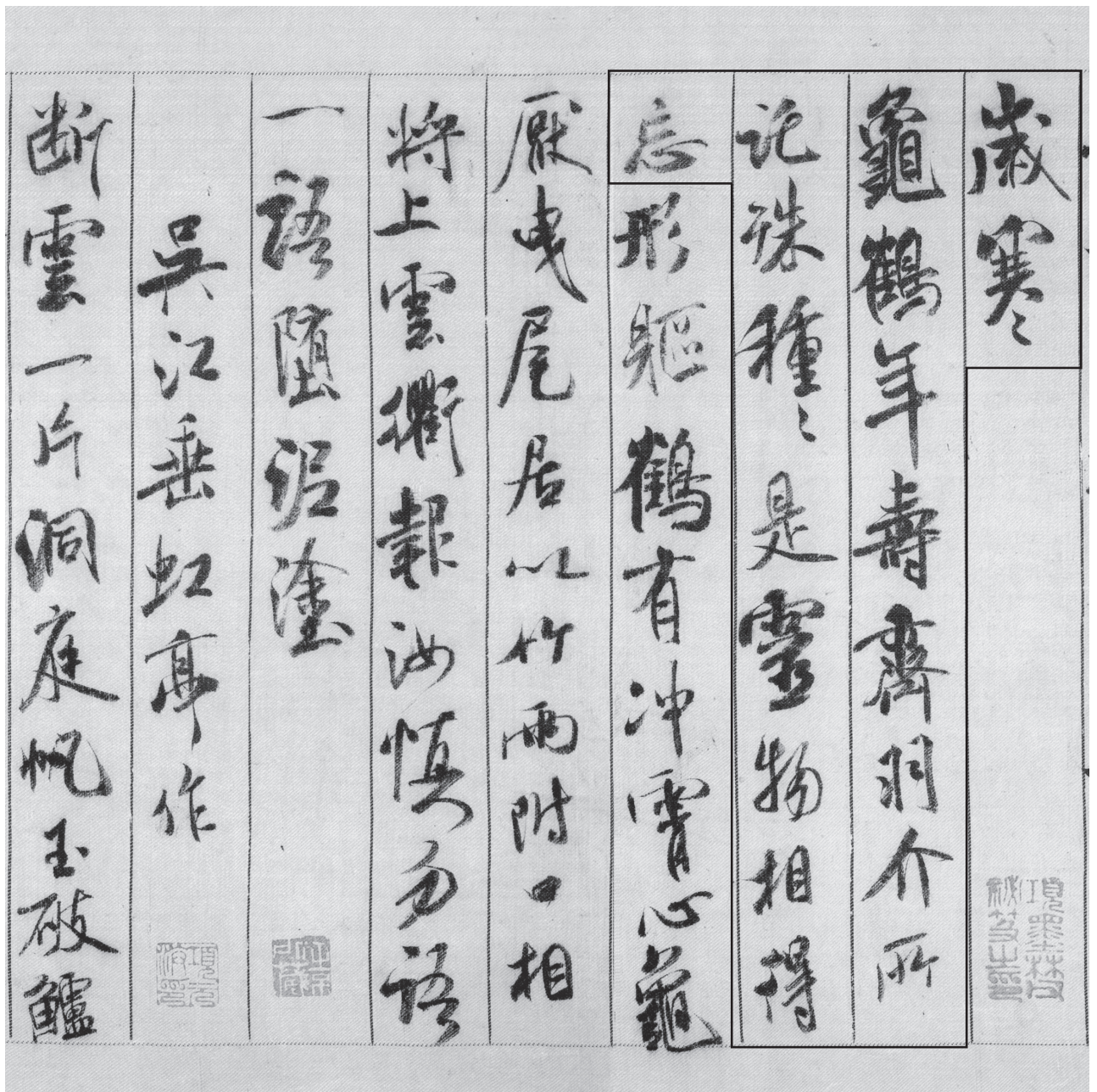
条幅規定

A 部（準五段以上）

歳
龜
壽
齊
靈

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

（この課題を同月の条幅随意には出品出来ません）



『蜀素帖』 米芾（宋）

（安得保） 歳寒。 龜鶴年壽齊。

羽介所託殊。 種種是靈物。

相得忘形軀。 鶴有冲霄心。

龜厭曳尾居。 以竹兩附口。

相將上雲衢。 報汝慎勿語。

一語墮泥塗。

吳江垂虹亭作

斷雲一片洞庭帆玉破鱸

安んぞ歳寒を保つを得んや

龜鶴年壽齊しきも

羽介託する所殊なる

種々是れ靈物

相い得んや形軀を忘るるを

鶴には有り冲霄の心

龜は厭う曳尾の居

竹を以て両に口に附し

相い將いて雲衢に上る

汝に報ず慎んで語る勿かれ

一たび語れば泥塗に墮ちん

吳江垂虹亭の作

斷雲一片洞庭の帆玉は鱸魚を破り

【今月の課題】

「歳寒龜鶴年壽齊羽介所

託殊種種是靈物相得忘」

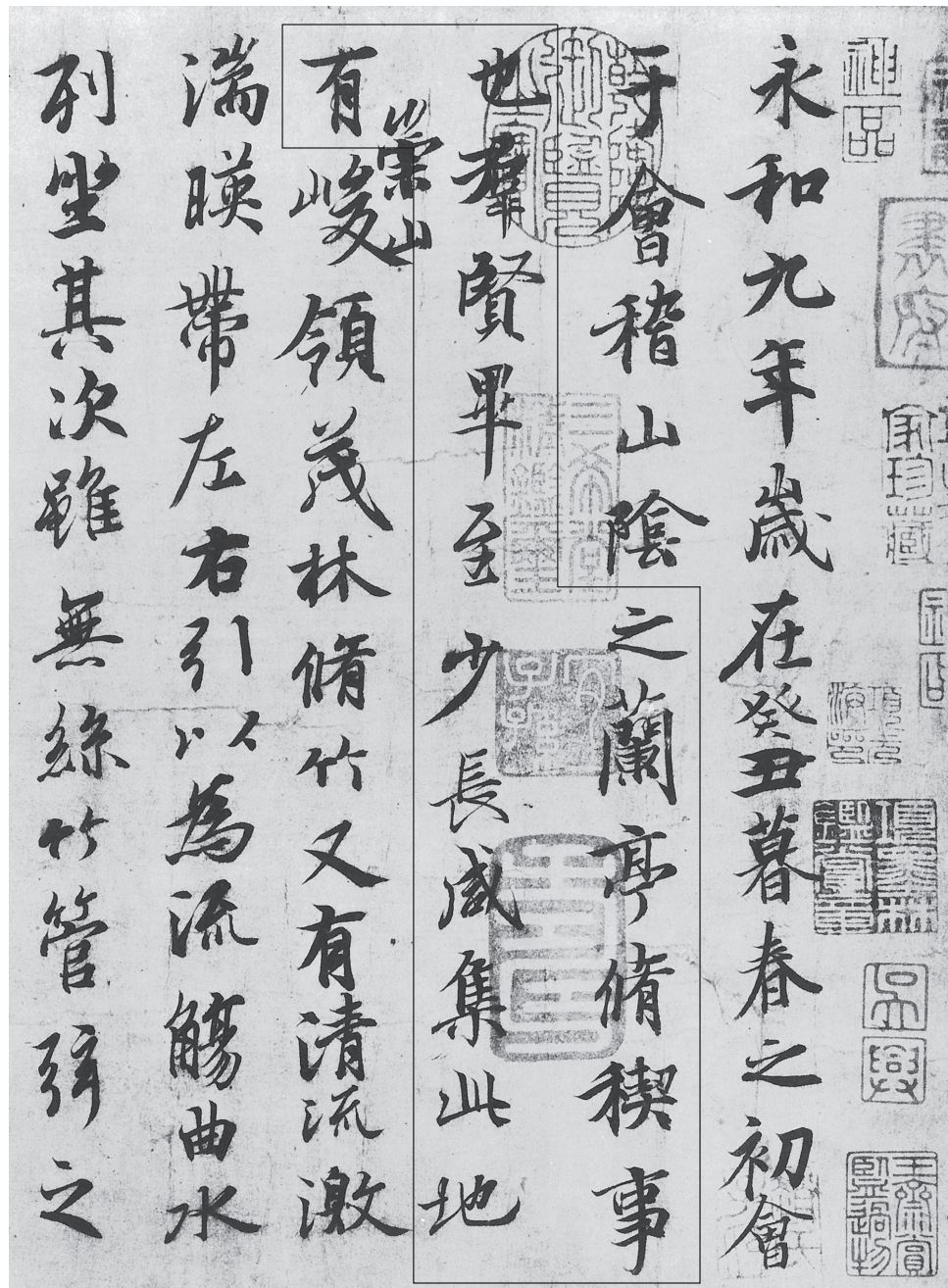
（20字）

（9月10日締切）

条 幅 規 定

B 部（四段以下）

『蘭亭叙』
王羲之（東晋）



永和九年 歲在癸丑 暮春之初 會
于會稽山陰之蘭亭 脩禊事
也 羣賢畢至 少長咸集 此地
有崇山峻嶺 茂林脩竹 又有清流激
湍 映帶左右 引以為流觴曲水
列坐其次 雖無絲竹管絃之

永和九年。歲は癸丑に在り。暮春の
初め、會稽山陰の蘭亭に會す。禊事
を脩むるなり。群賢畢く至り、少長
咸な集まる。此の地崇山峻嶺、茂
林脩竹有り、又た清流激湍有り
て、左右に映帶す。引いて以て流
觴曲水を為し、其の次に列坐す。
絲竹管絃の盛無しと雖も、

【今月の課題】

「之蘭亭脩禊事也羣賢畢
至少長咸集此地有」

(18字)

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(9月10日締切)

曹全碑（漢・作者不詳）

孝廉張掖屬



半紙規定（一）

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

孝廉張掖屬

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

實取驗於當



半紙規定（二）

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書
〔二級以下〕楷書

・実・に・験・を・当・今・に・取・る

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
（9月10日締切）

条幅参考手本

一生復能幾
倏如流電驚
鼎
百季内持此欲何成

高鴻

板垣厲跳先生

一生復能幾 倏如流電驚 鼎鼎百年内 持此欲何成
一生復能く幾ぞ 倏なること流電の驚くが如し 鼎鼎たる百年の内 此を持して何をか成さんと欲する

熊倉翠李先生

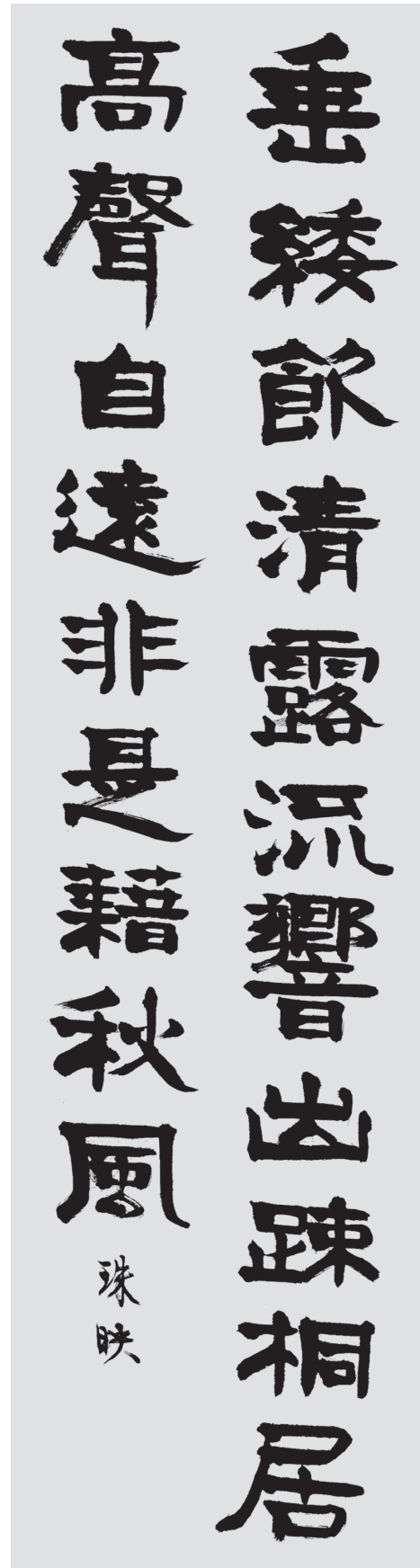
明月吐夜光
寒影在溪水
山人抱琴來
坐久秋雲起
人抱琴來坐久秋雲起

翠李

明月吐夜光 寒影在溪水 山人抱琴來 坐久秋雲起
明月夜光を吐き 寒影溪水に在り 山人琴を抱いて来り 坐久しくして秋雲起くる

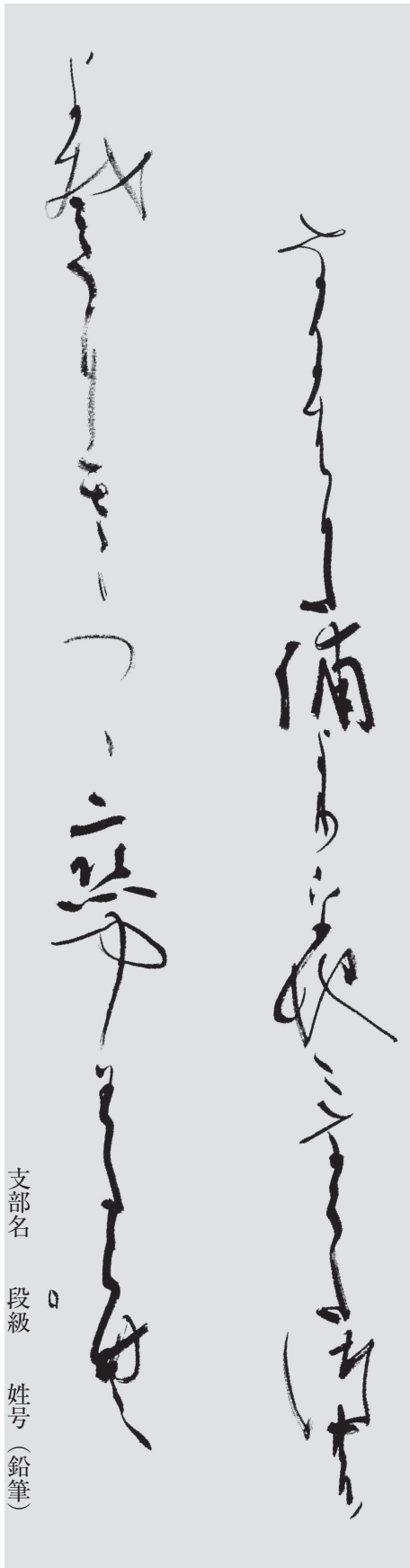
条幅参考手本

条幅かな



大野 珠映 先生

垂綫飮清露 流響出疎桐 居高聲自遠 非是籍秋風
垂綫して清露を飮み 流響疎桐より出つ 高きに居れば聲自ら遠し 是れ秋風を籍るに非ず



浮 乗 清 郷 先生

難波がた浦より遠になく鶴のよそにき、つゝ恋やわたらむ (源 実朝)
奈爾者可多 利手地二奈 多徒農 楚耳 王多良無

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

支部名 段級 姓号 (鉛筆)

(9月10日締切)

半紙かな（１級以下）

鶯に清濁の水しづかなり（井上士朗）
うぐくす きよたき みづ しづかなり
う九日須二 徒可奈里

支部名 級 姓 号（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

鶯に清濁の水しづかなり

小林素水先生

かすみだにやまぢにしはるのかたみとも見む（相模）※ちらし文字変換は自由
かすみだにやまぢにしはるのかたみとも見む
三多二万運八志多地万爾者可多三母み無

支部名 段 姓 号（鉛筆）

かすみだにやまぢにしはるのかたみとも見む

浮乗清郷先生

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（９月１０日締切）

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

流れを窮め山の神をも呼ばひ
谷の鬼をも起し歌人の魂をも
遠く返して清く其声をうち
あげて朽ちせぬ琴をかき鳴らせ

支部名 段・級 姓 号

渡 邊 南 嶂 先生

島崎藤村「晩春の別離」より

(9月10日締切)

細

高須翠雲書「五體昭和千字文」より
P50

主幹菅野翠濤

号

※一級〜八級は草書まで。
初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

沛然 雨のたくさん降る様。
描弧 弧をえがく。

弧をえがく。

— 12 —

硬筆（１級以下）

2行、楷書

ひらがなには全てに字源があって、
外形によって区分されます。
支部 級 姓 号

田邊翠鶴先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

…後の…地面…一瞬…空気…街が少し…。

夕立の後の匂いが、地面に立ちのぼる。
一瞬のリセットで冷えた空気中に包
まれて街が少し落ち着いた。
支部 級 姓 号

青柳江雲先生

※本院定型用紙・たて半分に書く

（9月10日締切）

中2用

支
部名
段級
名
前

西洋の
学問

渡
邊
南
嶂
先生

中3用

支
部名
段級
名
前

民芸品の
の店

大
越
三
宗
先生

小6用

支
部名
段級
名
前

秋風の
音

渡
邊
南
嶂
先生

中1用

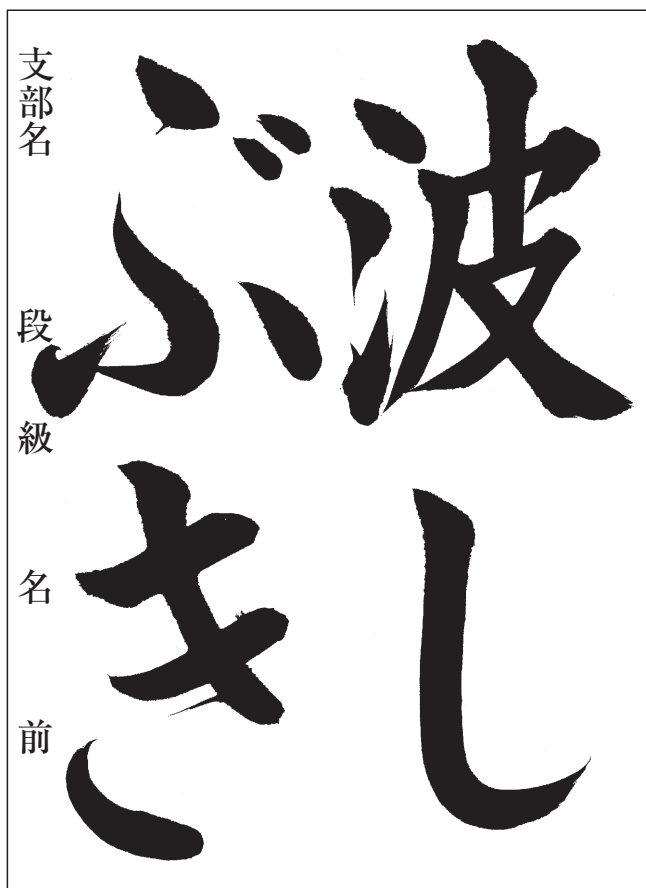
支
部名
段級
名
前

旅の思
い出

渡
邊
南
嶂
先生

(9月10日締切)

小4用



大越三宗先生

小5用



大越三宗先生

小2用



鈴木翡翠先生

小3用



鈴木翡翠先生

(9月10日締切)

中1

準備は間に合わない。急な必要にせまられない。

中1～中3

中2

開発が進むに従い、自然が破壊されていく。自己

青柳江

中3

良寛は、禅僧、歌人、書家として有名な。

雲先生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

あお

鈴木 恵 先生

小1・幼年

かえるのが、しょうがきこえてきます。

小1～小3

小2

かぜに、白い花びらがゆれています。

田邊翠

小3

木かげに入ると、すずしい風がほおをなでる。

鶴先生

小4

大空を鳥のように元気によく、とび回りたい。

小4～小6

小5

夜に鳴く虫の声に、夏の終わりを感じます。

齊藤 翫

小6

日曜の朝、食事を作る手伝いをしています。

流先生

(9月10日締切)

小学部小筆課題

支部名		主 幹
段 級		菅 野 翠 濤
名 前	夏の夜に 花火大会	

中学部かな課題

支部名		船 久 保 棠 苑 先 生
段 級		
名 前	ふさの葉に ぽんと穴あき暑さ かな	

※半紙半分に書いて下さい。 (9月10日締切) ※半紙半分に書いて下さい。

10月10日締切課題予告

A 部条幅規定 形軀鶴有冲霄心龜厭曳尾居以竹兩附口相將上

B 部条幅規定 崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右

かな条幅規定 峯になくしかのね近くきこゆなりもみぢふきおろす夜半のあらしに(前参議経盛)

半紙規定(初段以上) 国都尉丞右 半紙規定(一級以下) 今斯乃上帝

半紙かな(初段以上) 山里に霧籬のへだてずば遠方人の袖はみてまし(曾欄好忠)

半紙かな(一級以下) 花鳥のなかの鬼灯ともりける(後藤夜半)

実用文 げにや大雅をこひ慕ふ君にしあれば君がため芸術の天に懸る日も時を導く星影も
いづれ行くへを照らしつゝ深き光を示すらむ

一般硬筆(初段以上) 余白を恐れず、空間を活かして文字を置いていく。詰め込みすぎ
ない美しさが書に深みを与える。

一般硬筆(一級以下) 会津八一ゆかりの雁来紅の種子蒔きて庭一面に咲くを楽しむ

10月10日締切課題並びに後期昇段級試験課題10月15日締切

中三毛筆 紅葉の山野

中三硬筆 急にさえ渡った空に、秋の星座が昇り始めた。

中二毛筆 初秋の月夜

中二硬筆 野鳥が住めるような自然環境にしたい。

中一毛筆 大型の台風

中一硬筆 教科書の本文を読んで感想文にまとめる。

小六毛筆 新米の味

小六硬筆 学生書道コンクールで特選をもらった。

小五毛筆 月見の夜

小五硬筆 海辺では、雲が流れ、まつ林が風にさわぐ。

小四毛筆 小さな魚

小四硬筆 高原の風に、コスモスの花が、大きくゆれた。

小三毛筆 ガラス玉

小三硬筆 ススキが出はじめた。もうすっかり秋です。

小二毛筆 サイン

小二硬筆 とおくで、川の水がひかっています。

小一毛筆 ひも

小一硬筆 あきは、くだものがいっぱいあります。

中学部かな つたの葉や のこらずうごく 秋の風

小学部小筆 虫の声 秋は近し

令和8年後期昇段試験要項

左記により令和8年後期昇段試験を施行いたします。

*作品締切 ・ 漢字 仮名部 9月8日(火)

・ 実用文 細字 硬筆部 9月24日(木)

◎漢字部 臨書課題

◆A部 六段・五段に応試(用紙・聯落 $\frac{1}{4}$ つき)

楷書 魏靈藏薛法紹造像記

P・20参照

草書 懷素・自叙帖

P・20参照

隸書 乙瑛碑

P・21参照

◆B部 四段・三段に応試(用紙・謙慎サイズ40cm×160cm)

楷書 美人董氏墓誌銘

P・21参照

行草書 趙孟頫・前後赤壁賦

P・22参照

隸書 曹全碑

P・22参照

◆C部 二段に応試(用紙・半切)

楷書 歐陽詢・九成宮醴泉銘

P・23参照

行草書 王羲之・集字聖教序

P・23参照

隸書 曹全碑

P・24参照

◆D部 初段に応試(用紙・半切)

楷書 歐陽詢・九成宮醴泉銘

P・24参照

行書 王羲之・蘭亭序

P・25参照

※級から級への受験者はD部に応試のこと。

◎かな部

◆A部 六段・五段に応試

(イ)聯落 $\frac{1}{4}$ つき以内「たて」に揮毫

声あげて何を歌はむ枯草に小菊すこしが咲きまじる山

(ロ)全懷紙「たて」に揮毫

木の葉ちる時雨やまがふわが袖にもろき涙の色と見るまで

(ハ)古典臨書(揮毫部分は任意)

「小島切」を半紙半分相当、「たて」に書く

◆B部 四段・三段に応試

(イ)聯落 $\frac{1}{4}$ つき以内「たて」に揮毫

この山に秋たちてよりあらくさの草むらなかに螢ひかりぬ

(ロ)半切 $\frac{1}{2}$ 「たて」に揮毫

名月や池をめぐりて夜もすがら

(ハ)古典臨書(揮毫部分は任意)

「関戸本古今集」7～8行相当、「たて」に書く

◆C部 二段・初段に応試

(イ)半切「たて」に揮毫

咲きそめし宿しかはれば菊のはな色さへにこそうつろひにけれ

(ロ)古典臨書(揮毫部分は任意)

「高野切第一種」を4～5行相当、「たて」に書く

※級から級への受験者はC部に応試のこと。

出品の際、バーコードを必ず貼付の事。貼り忘れた場合は保留となります。

◎実用文

半紙タテ書き。落款は行書又は草書

◆A部 準三段以上に応試

『弘法筆を扱はずと言う諺で知られる空海は、遣唐使として中国に渡り、仏教や書道を学びながら筆の作り方も研究し、帰国して嵯峨天皇に献上しています。』

◆B部 二段以下に応試

『書道の作品においては、本文・落款を書いて最後に印を押して完成となるわけですから、印は非常に大切な意味を持っています。』

◎細字部

半紙横書き。落款は楷書・旧漢字使用。

(初段受験の方は楷行草の三体、準二段以上受験の方は楷行草隸の四体を揮毫して下さい。)

『古墨輕磨滿几香 硯池新浴照人光』(趙孟頫詩)

(古墨輕磨すれば 几に満ちて香しく 硯池新に浴し人を照して光る)

※級から級への受験者は草書までを揮毫のこと。

◎硬筆部

◆A部 六段・五段に応試

本院定型用紙に楷・行・草別葉に揮毫のこと。(書風は自由・落款は各体に書く。)

『落款は落成款識を略したもので、作品を書き上げて最後に、いつ、どこで、誰が、何を揮毫したかを書き、印を押し、作品を完成させることです。印のことは、落款印といいます。』

◆B部 四段〜準二段に応試

本院定型用紙に楷・行・草別葉に揮毫のこと。(書風は自由・落款は各体に書く。)
『端溪硯は中国広東省の西江という川で採掘され、此の地を端州と言ったことから称された名硯です。』

◆C部 初段に応試

本院定型用紙タテ半分に、楷・行別葉に揮毫のこと。(書風は自由・落款は各体に書く。)

『半紙には漢字用と仮名用があり、機械漉きと手漉きがあります。』

※級から級への受験者はC部に応試のこと。

※合格者には合格証を発行します。

※手本希望の方は手本代と返送用封筒(切手添付)を同封して直接希望の師範へ依頼して下さい。(手本の税の有無確認して下さい。)

※揮毫した師範は一回限り無料添削の義務あるものとし、二回以上添削希望の者はその師範の指示に従って下さい。

※漢字作品出品の際、提出作品を、楷・行草・隸の順に重ね、一番上の作品の左下に鉛筆で支部名・現在の段級・姓号を記入して下さい。(仮名作品はそれぞれに鉛筆で記入)

※バーコード出品券にも現在の段級を記入し、一枚だけ貼り付けて下さい。

出品の際、バーコードを必ず貼付の事。貼り忘れた場合は保留となります。

後期昇段試験課題（六段・五段）

楷書 魏靈藏薛法紹造像記（北魏・作者不詳）

魏靈藏河東薛法紹二人等
 裴豪光東照之資關兜率
 翹頭之益敢磬家財造石
 像一

中国法書選 20 P 39 ~ 40

魏靈藏河東薛法紹二人等裴豪光東照之資關兜率翹頭之益敢磬家財造石像一（33字）

聯落 $\frac{1}{4}$ 繼に揮毫

草書 自叙帖（唐・懷素）

懷素家長沙幼而事佛經禪之暇頗好筆翰然恨未能遠觀前人之
 奇跡所見甚淺遂擔
 自叙帖見七十八字

中国法書選 43 P 2 ~ 3

懷素家長沙幼而事佛經禪之暇頗好筆翰然恨未能遠觀前人之奇跡所見甚淺遂擔（33字）

聯落 $\frac{1}{4}$ 繼に揮毫

後期昇段試験課題

(四段・三段)

(六段・五段)

隸書 乙瑛碑（後漢・作者不詳）



若重規園乙君察舉守宅除吏孔子十九世孫廉請置百石吏舍一人鮑君造作百石吏舍（33字）

聯落¼繼に揮毫

楷書 美人董氏墓誌銘（隋・作者不詳）



中国法書選 26 P 40



美人姓董汴州恆宜縣人也祖佛子齊涼州刺史敦仁（21字）

謙慎サイズに揮毫

中国法書選 4 P 40 ~ 42

後期昇段試験課題（四段・三段）

行草書 前後赤壁賦（元・趙孟頫）

徘徊於斗牛之間
白露橫江水
光接天縱一葦之所如

中国法書選 49 P 21

徘徊於斗牛之間白露橫江水光接天縱一葦之所如（21字）

謙慎サイズに揮毫

隸書 曹全碑（後漢・作者不詳）

巴郡胸忍令張掖居延都尉曾祖父述孝廉謁者金城

中国法書選 8 P 6

巴郡胸忍令張掖居延都尉曾祖父述孝廉謁者金城（21字）

謙慎サイズに揮毫

後期昇段試験課題（二段）

楷書 九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

上善降祥上智斯悅流謙
潤下潺湲皎潔萍

中国法書選31 P 36

上善降祥上智斯悅流謙潤下潺湲皎潔萍（17字）

半切に揮毫

行草書 集字聖教序（東晋・王羲之）

炬之光火宅之朝降法雨之
澤於是百川異流同

中国法書選16 P 24

炬之光火宅之朝降法雨之澤於是百川異流同（19字）

半切に揮毫

後期昇段試験課題

(初 段)

(二 段)

隸書 曹全碑（後漢・作者不詳）

北地太守父瑋少貫名州郡不幸早世是以位

中国法書選 8 P 8

北地太守父瑋少貫名州郡不幸早世是以位（18字）

半切に揮毫

楷書 九成宮醴泉銘（唐・歐陽詢）

九成之宮此則隨之仁壽宮也冠山抗殿

中国法書選 31 P 5

九成之宮此則隨之仁壽宮也冠山抗殿（16字）

半切に揮毫

後期昇段試験課題（初段）

◎昇段試験 受験料

	六～準五段 受験	四～準三段 受験	二～準二段 受験	初段 受験
漢 字	4950円	4400円	3850円	3300円
か な	4950円	4400円	3850円	3300円
実用文	3850円	3300円	2750円	2200円
細 字	3850円	3300円	2750円	2200円
硬 筆	3850円	3300円	2750円	2200円

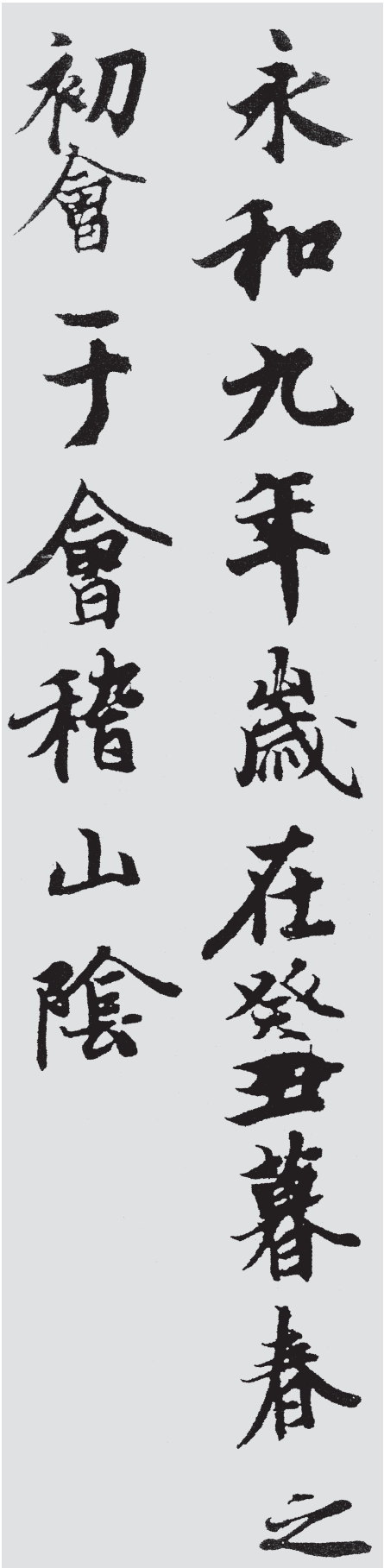
(税 込)

◎昇段試験 手本代（参考価格）

	六～準五段 受験	四～準三段 受験	二～準二段 受験	初段 受験
漢 字 (1書体)	5000円	3500円	2500円	2000円
か な (1セット)	8500円	7500円	6000円	6000円
実用文	2000円	2000円	1500円	1500円
細 字	2500円	2500円	2500円	2000円
硬 筆 (1セット)	7000円	6000円	6000円	3000円

(税 別)

永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰（18字）



行書 蘭亭序（東晋・王羲之）

中国法書選15 P 14

半切に揮毫